
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年10月29日号

©2007年9月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年9月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 秋・冬の気象条件は全体に良好、食糧の播種面積は3.8億畝確保に努力

国家気象局によると、今年の夏以降光熱が十分であり、秋まき地域の大部分では秋収穫作物の収穫が正常で、秋の播種に有利な状況にある。8月下旬以降、北部の冬小麦、アブラナ生産地域の大部分で降水量が多く、現在の土壌湿度は良好であり、水分条件が秋まきに有利である。ただし、華北地区北部では旱魃が続き、陝西省中南部では土壌の水分が過剰であり、秋まきには不利な条件にある。黄河・淮河流域（黄淮地区）西部、陝西省南部及び西南地区東部では、9月中旬が低温長雨であった影響から、一部では秋収穫作物の収穫が遅れた。全体として、今年の秋及び冬の気象条件は秋・冬の播種及び作物の生長に有利ではあるが、一部の地域では、低温長雨や旱魃の発生に注意する必要がある。

9月中旬以降、全国では秋・冬の播種が相次いで行われている。農業部は今年の秋・冬まき作物の具体的な目標について、秋・冬まき食糧の播種面積は3.8億畝（畝：ムー／1畝＝15分の1ヘクタール）の確保を努力目標とし、冬小麦（収穫は翌年初夏）の単収を今年に比べ1%増、小麦の優良品質率を今年に比べ3ポイント増の65%と設定した。目標では、小麦播種の規範化などの技術普及を図り、土壌調査によって施肥技術を推進する農地の面積を1.5億畝（冬小麦の播種面積の65%以上）としたほか、病虫害の統一的な防除を行う農地の面積を5千万畝、小麦の病虫害による損失率を5%以内としている。

2 1～8月の小麦輸出量は前年同期比2倍以上の増加、輸出は減少

海関統計によると、2007年8月の中国の小麦輸出量は前月に比べ減少、輸入は増加した。

同月の小麦輸出量は24.11万トンで、前月比14.16%減、前年同月比2.39倍増、同じく輸入量は3,386トンで、前月比2.35倍増、前年同月比92.55%減となった。1～8月の小麦の累計輸出量は、前年同期比2.15倍増の143.21万トン、同じく累計輸入量は同81.69%減の7.47万トンとなった。

3 2007/08年度の国内小麦供給は充足、国際在庫量は大幅減

【国内市場】2007/08年度（2007年6月～2008年5月）における国内の小麦生産量はやや増加と予測されている。総消費量は前年度に比べやや増加し、そのうち食用消費量は基本的に安定するものの、国内畜産業の発展及びバイオエネルギー需要の影響を受け、小麦の飼料消費量及び工業消費量の増加が比較的大きいとみられている。今年度の国内小麦供給は需要を満足させるものと予測され、小麦の期末在庫量は前年度を小幅ながら上回るものとみられている。

【国際市場】9月の米国農務省（USDA）の予測によると、2007/08年度の世界の小麦生産量、消費量とも、前月の予測に比べややマイナス修正となったが、前年度に比べるといずれも増加する見込みである。同年度の世界の小麦生産量は前年度比2.2%増の6億624万トン、期首在庫量1億2,508万トンを加えると、総供給量は同1.5%減の7億3,132万トンとみられている。同じく消費量は同0.3%増の6億1,896万トン、うち飼料用は4.8%減の1億120万トンと見積もられている。これにより、同年度の世界の小麦需給は、需要が生産を1,272万トン上回り、期末在庫量は10.2%減の1億1,236万トンと予測され、1982/83年度以来最近26年間で最低を記録するとみられている。世界の小麦在庫／消費比は18.2%で、1960/61年度以来最低の水準と予測されている。インドなどの生産量が増加し、輸入量が減少していることから、世界の小麦輸出量は、前年度比5.9%減の1億411万トンと見積もられている。また、カナダ、EU27か国、アルゼンチンの輸出が減少することから、世界の小麦輸出量は同1%減の1億691万トンと見積もられている。

4 国内市場は全体に安定的、小麦の国際価格はさらに記録更新へ

（1）新収穫麦（新麦）価格は堅調を維持

6月の新麦の販売開始以来、最低買上価格政策などの支持や多方面からの買い付けが積極的であることなどから、河北省などの農民が売り惜しみをし、価格が次第に高騰しており、最低買上価格は前年同期に比べ減少している。9月に入り、国有食糧企業による最低買上価格小麦の買い付けが終わりに近づき、国有食糧倉庫の小麦在庫更新業務も基本的に終了し、主産地の農民も収穫と秋糧（トウモロコシ、コメなど）及び綿花など秋収穫作物の出荷に多忙で、新麦の取り引きは比較的少ないものとなっている。9月の小麦主産省の国有食糧企業その他買入主体の白小麦の買付価格は、100斤（約50kg）：

1斤＝約500グラム)当たり77.6円で、前月比1.37%高、前年同月比10.67%高となった。同じく紅小麦は同70.31円で、前月比0.26%高、前年同月比2.47%となった。混合小麦は同71.14円で、前月比0.81%高、前年同月比4.42%高となった。

また、統計によると、9月25日までの河南省、河北省及び山東省など11の小麦主産省における各種食糧企業の新麦の累計買付量は4,217.3万トンで、うち国有食糧企業はその85%を占める3,595.6万トン(前年同期比929.8万トン減)となった。最低買上価格小麦の買付量は2,886.6万トン(同1,138.3万トン減)で、国有食糧企業の買付総量の80%を占めた。各地の最低買上価格小麦の買付進度の差は比較的大きく、江蘇省では586.2万トン(前年の同省における最低買上価格小麦買付総量の95.94%)、湖北省では195.2万トン(同97.6%)、河南省では1,288.3万トン(同71.06%)、安徽省では497.2万トン(同79.94%)、河北省では196.1万トン(同40.27%)、山東省では123.6万トン(同34.24%)などとなっている。

(2) 古麦価格は全体に安定しつつもやや上昇

秋になって全国の小麦粉消費量が需要期に入ると、需要を満足させるため、8月以降、政府は2006年の最低買上価格小麦の放出量を増加させ、企業の食糧需要を基本的に満足させることができた。9月になっても、政府は引き続き最低買上価格小麦の競売量を増加させたものの、成約率は8月に比べ低下し、9月6日・13日・20日・27日の競売量はそれぞれ142.25万トン・148.69万トン・149.26万トン・150.98万トンで、成約率はそれぞれ38.92%・46.16%・21.73%・14.13%となり、8月の平均成約率57.6%に比べ低水準となった。この他、9月13日から政府は少量ながら2007年の最低買上価格小麦の競売も始めている。

小麦市場の供給量が比較的分十分であるため、価格は全体に安定しつつもやや上昇した。9月の鄭州市(河南省の省都)の食糧卸売市場における普通小麦(一般品質の小麦)の卸売価格は、1トン当たり1,542.5円で、前月比0.41%高、前年同月比9.2%高となった。同じく優良小麦については1,655円で、前月比0.46%高、前年同月比2.8%高となった。

後期の食糧及び食用油の供給安定確保のため、政府は9月下旬以降、備蓄穀物・食用油の放出量を増加させるとともに、最低買上価格を下回らないことを前提に小麦及びコメの競売最低価格の引き下げを行った。さまざまな要因を総合すると、短期的には国内の小麦市場は全体として安定的に推移するものとみられている。

(3) 国際小麦価格は高値をさらに更新

9月のオーストラリアの主要産地では、早魃により小麦生産量が引き続き減少し、前年度よりは高水準であるものの、2005/06年度の水準と比べると大幅に低い水準であり、USDAは、前月に比べ世界の小麦生産量及び末在庫量とも下方修正している。こうした影響を受け、国際市場における小麦の現物・先物価格はとも引き続き大幅に上昇し、

かつ価格及び前月比上昇幅、前年同月比上昇幅とも史上最高となった。

【現物取引】9月の米国メキシコ湾における硬紅冬麦（蛋白質有量12%）の平均港湾価格（本船渡し価格＝F O B価格）は1トン当たり352.5ドルで、前月比25.71%高、前年同月比69.63%高となった。西北大西洋の硬紅春麦（蛋白質含有量14%）の平均F O B価格は同339.5ドルで、前月比23.19%高、前年同月比67.08%となった。

【先物価格】9月のカンザス先物取引所における硬紅冬麦の平均先物価格は1トン当たり312.71ドルで、前月比26.99%高、前年同月比79.10%高となった。ミネアポリス先物取引所における硬紅春麦の平均先物価格は同303.11ドルで、前月比24.14%高、前年同月比81.57%高となった。

原油価格高騰などの影響を受け、9月の国際海上輸送費は起筆付き上昇し、1トン当たり96.25ドル（前月比10.13%高、前年同月比90.97%高）にまで達したことに加え、小麦の国際市場価格が大幅に高騰し、内外価格差は史上最高をさらに更新した。9月の米国メキシコ湾における硬紅冬麦（蛋白質含有量12%）の通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）は、同月の国内優良小麦の消費地における卸売価格に比べ、1トン当たり2,104元高く、前月に比べ価格差が706元拡大した。